皮膚附属器癌（ひふふぞくきがん）

皮膚附属器癌について

皮膚附属器癌とは、皮膚の汗腺、脂腺、毛包の構成成分に分化を示す悪性腫瘍の総称です。いずれも他の皮膚癌に比べて頻度が少なく、稀な腫瘍です。
皮膚附属器癌の明確な原因は特定されていませんが、他の皮膚がんと同様に、長期間の紫外線暴露、慢性的な刺激、放射線被曝などが関与している可能性があります。

症状について

臨床像は多様で、他の皮膚がんや良性腫瘍と似た外観を呈することがあります。一般的に、皮膚の盛り上がりや結節として現れ、進行すると潰瘍化したり、リンパ節や他の内臓に転移することもあります。

診断について

診断は病理組織学的検査で行います。必要に応じて表在超音波検査、CT、MRI、PET などを行い、腫瘍の広がりや転移の有無を評価します。

治療について

皮膚附属器癌の治療は外科的切除で、腫瘍から十分な余裕をもって周囲の健常組織ごと切除します。
所属リンパ節転移を認める場合、リンパ節を一塊に切除するリンパ節郭清術が行われることがあります。
手術が困難な場合や、術後補助療法として放射線治療が用いられることがあります。
進行例や転移例に対しては化学療法が用いられることがあります。確立された標準治療はありませんが、上皮系皮膚悪性腫瘍としてニボルマブが保険収載されており、これが用いられることがあります。

また、最近では遺伝子パネル検査を用いて個別化治療を行うこともあります。

執筆者

- 氏　名：　森 章一郎（もり　しょういちろう）
- 所属医療機関：　名古屋大学医学部附属病院
- 診療科：　皮膚科

- 氏　名：　奥村 真央（おくむら　まお）
- 所属医療機関：　名古屋大学医学部附属病院
- 診療科：　皮膚科